

2026年2月27日

## 「くひろぎん」SX ネクストローン」の実行について 【株式会社金本商会】

株式会社広島銀行（頭取 清宗 一男）では、「くひろぎん」SX ネクストローン」を実行しましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

### 1. 案件概要 「くひろぎん」SX ネクストローン」の概要は【別紙 1】をご参照ください

融資実行日	2026年2月27日
融資形式	証書貸付
融資金額	8千万円
融資期間	10年
目標	RPF 製造量
その他	ひろぎんエリアデザイン株式会社から「くひろぎん」SX ネクストローンにかかる評価書【別紙 2】を取得しております。

### 2. 企業概要

会社名	株式会社金本商会
所在地	広島県広島市安佐北区可部 9-1-23
代表者	金本 茂男
業種	産業廃棄物処理業
事業内容等	RPF 製造事業・ゴムチップ資源化事業・ 産業廃棄物収集運搬事業・産業廃棄物中間処理事業

以上



広島銀行では、SDGs への取組みを強化しております。

【SDGs (Sustainable Development Goals) 持続可能な開発目標】  
2015年9月に国連で採択された、経済・社会・環境のあり方についての2030年までの世界共通目標。持続可能な開発のための17の目標と169のターゲットで構成。

### 本件に関するお問い合わせ先

株式会社広島銀行  
営業企画部 法人企画室  
TEL (082) 247-5151 (代表)

## 「(ひろぎん)SX ネクストローン」について

### ○特長

- ・地元企業のサステナビリティ向上に寄り添い、地域のサステナビリティ向上に資する取組みについて、資金面からご支援します。
- ・お客さまと地域のサステナビリティ向上につながる目標を設定していただき、目標達成の場合に金利引き下げを実施します。
- ・対外 PR 支援として、融資実行時に当行よりニュースリリースを行い、サステナビリティへの取組みの対外公表をご支援します。

### ○商品概要

対象となる方	以下のすべてを満たす法人のお客さま ・自社と地域のサステナビリティ向上に資する目標を設定※ ・年 1 回のレポートの実施（お客さまから銀行への報告） ※設定目標には、ひろぎんエリアデザインによる評価を実施
お使いみち	運転資金・設備資金
ご融資金額	当行所定の金額
ご融資期間	2 年以上（固定金利は 10 年以内）
ご融資利率	当行所定の金利（目標達成の場合、金利引下げを実施）
ご融資形式	証書貸付・当座貸越
ご返済方法	当行所定の審査によります
担保・保証人	
取扱手数料	組成難易度に応じてスキーム構築手数料が必要となります

- ・SX とは、Sustainability Transformation の略で、企業がサステナビリティ（持続可能性）を重視した経営方針に転換することです。
- ・本商品は環境省等が定めるガイドラインに適合する SLL（サステナビリティ・リンク・ローン）ではございません。

# 〈ひろぎん〉SXネクストローンにかかる評価書【別紙2】

## 株式会社金本商会 〈ひろぎん〉SXネクストローン

発行日：2026年2月27日  
発行者：ひろぎんエリアデザイン株式会社

本文書は、株式会社広島銀行(以下、「貸付人」という)と株式会社金本商会(以下、「借入人」という)の間の〈ひろぎん〉SXネクストローン(以下、「本ローン」)について、貸付人が、持続可能な地域社会の実現に貢献することを目的とし、地域特性や業種特性を踏まえて独自に設定した評価基準に基づき、借入人のサステナビリティに対する取り組みを評価したものであり、以下にその評価結果を報告する。

## 1. 借入人とサステナビリティ

### (1) 会社概要

借入人は、広島県広島市を拠点に産業廃棄物の収集運搬・中間処理・再資源化を一貫して手がける環境リサイクル企業である。多様な産業廃棄物の適正処理を行うとともに、廃棄物を原料としたRPF（廃棄される紙やプラスチックを原料とした固形燃料）やゴムチップ燃料の製造を通じ、資源循環と環境負荷低減の両立を推進している。「廃棄物に、価値を。」という企業理念のもと、廃棄物を単なる処分対象ではなく有用な循環資源として捉え、環境保全と経済活動の調和を図りながら、循環型社会の実現と地域産業の持続的発展に貢献している。



RPF



RPFプラント



ロゴマーク

企業名	株式会社金本商会
代表者	代表取締役 金本 茂男
本社所在地	広島県広島市安佐北区可部9-1-2 3
設立	1982年8月
資本金	500万円
事業内容	<ul style="list-style-type: none"><li>・ RPF製造事業</li><li>・ ゴムチップ資源化事業</li><li>・ 産業廃棄物収集運搬事業</li><li>・ 産業廃棄物中間処理事業（破碎・選別・圧縮固化）</li><li>・ 一般貨物自動車運送事業</li><li>・ 計量証明事業</li></ul>

(資料) 借入人ウェブサイト、会社案内より作成



## (2) 事業内容

借入人の事業ポートフォリオは、RPF事業、廃合成ゴム資源化事業、産業廃棄物収集運搬事業、産業廃棄物中間処理事業の4つから構成され、4事業を相互に連携させることで、廃棄物の回収から再資源化までを一貫して担う循環型ビジネスモデルを構築している。

### 【借入人の事業ポートフォリオ】

区分	概要	特徴など
RPF事業 	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃プラスチックや紙くずなどの可燃性廃棄物を原料として、RPFを製造する事業</li> <li>化石燃料の代替エネルギーとして、主に製造業向けに供給している</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃棄物の減量化とエネルギー回収を同時に実現し、CO<sub>2</sub>排出削減に貢献</li> <li>品質管理を徹底し、安定した燃焼性能を有する燃料を提供することで、顧客の脱炭素ニーズに対応している</li> </ul>
廃合成ゴム資源化事業 	<ul style="list-style-type: none"> <li>使用済みゴム製品やゴム端材などの廃合成ゴムを回収・加工し、再資源化燃料（ゴムチップ燃料等）として有効活用する事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>埋立処分や単純焼却を回避し、資源循環を促進</li> <li>ゴム特有の高発熱量を活かし、燃料としての付加価値を創出している</li> </ul>
産業廃棄物収集運搬事業 	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動に伴い発生する多種多様な産業廃棄物について、排出事業者から処理施設まで適正に収集・運搬する事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>法令遵守を前提とした確実な運搬体制を構築し、排出事業者のコンプライアンス確保を支援</li> <li>中間処理・再資源化事業と一体で対応可能</li> </ul>
産業廃棄物中間処理事業 	<ul style="list-style-type: none"> <li>収集した産業廃棄物を選別・破碎・加工し、再資源化や適正処分につなげる中間処理を行う事業</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高度な選別・加工技術により、再資源化率の向上と最終処分量の削減を実現</li> <li>廃棄物を「資源」として最大限活用する姿勢が、同社の企業理念と直結</li> </ul>

(資料) 借入人ウェブサイトより作成



## (3) サステナビリティ

借入人は、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」の理念に賛同し、SDGsの達成に向けて以下の取り組みを実施している。

### 【SDGsへの取り組み】

カテゴリ	内容
 <p>1 貧困をなくそう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>会社案内パンフレットに環境配慮型のバナナペーパーを採用。</li> <li>ザンビア産バナナ茎繊維を原料とし、製造過程で雇用を創出。</li> <li>農村部の安定収入確保を通じ、地域経済の活性化と貧困削減、持続的成長に貢献している。</li> </ul> 
 <p>7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>廃プラスチックや紙くずを主原料とした高品位の固形燃料「RPF (Refuse derived paper and plastics densified Fuel)」を製造。</li> <li>RPFは石炭の代替燃料として発電用ボイラーで利用され、クリーンエネルギーの普及に寄与している。</li> </ul> 
 <p>9 産業と技術革新の基盤をつくろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>リサイクルが困難とされる廃プラスチック類を原料としたRPFの製造を通じて、廃棄物の有効利用と技術革新を推進。</li> <li>持続可能な産業基盤の構築に貢献している。</li> </ul> 
 <p>12 つくる責任 つかう責任</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業廃棄物の収集運搬からリサイクルまでを一貫して行い、廃棄物の適正処理と資源の有効活用を推進。</li> <li>持続可能な生産消費形態の確保に貢献している。</li> </ul> 
 <p>13 気候変動に具体的な対策を</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>RPF製造における石炭の使用を削減し、二酸化炭素排出量の抑制に寄与。</li> <li>気候変動への具体的な対策を講じている。</li> </ul>
 <p>15 陸の豊かさも守ろう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>RPF製造業や産廃処理業は、廃棄物を適切に処理しリサイクルすることで、自然資源への負担を軽減し、環境の劣化を防ぐ取り組みを実施。</li> <li>特に、廃プラスチックや紙を再利用することで、新たな資源採取を抑え、持続可能な資源管理に貢献している。</li> </ul>
 <p>17 パートナシップで目標を達成しよう</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の企業や自治体と連携し、廃棄物のリサイクルや環境保全活動を推進。</li> <li>持続可能な社会の実現に向けて積極的に貢献している。</li> </ul> 

(資料) 借入人ウェブサイトより作成



## 2. 目標の選定

### (1) 目標の概要

借入人は目標として、「RPF製造量」を選定した。ここでいうRPFとは、廃プラスチックや古紙などの産業廃棄物を主原料とした高品位な固形燃料をいい、「RPF製造量」とはその製造量を指す。

### (2) 目標の重要性

本目標は、廃プラスチックや古紙などの産業廃棄物の有効活用を促進し、最終処分量や化石燃料の使用を削減するうえで重要である。循環型社会の形成や温室効果ガス削減に貢献するとともに、資源循環ビジネスの拡大を通じて企業の環境価値および事業の持続可能性を高めるものであり、借入人のサステナビリティ経営において重要な意義を有する。

### (3) 経営方針と目標の関係

借入人は、前述したSDGsへの取り組みの一環として、RPFの製造を通じた廃棄物の有効利用や技術革新に取り組んでいる。そのため、本目標として選定した「RPF製造量」は、同社のサステナビリティ経営と整合する取り組みである。

### (4) 目標の有意義性

RPFは、廃プラスチックや古紙などの産業廃棄物を主原料とした高品位な固形燃料であり、従来は焼却や埋立処分されていた廃棄物を、化石燃料の代替エネルギーとして有効活用できる点に特徴がある。RPF製造量の増加は、最終処分量の削減や資源循環の高度化に直結する取り組みであり、循環型社会の形成に資するものである。

国の政策動向においても、廃棄物の循環利用と脱炭素化は重要な位置を占めている。環境省が策定する「循環型社会白書」では、プラスチック資源循環促進法等を背景に、プラスチックの3R（リデュース、リユース、リサイクル）とRenewable（再生可能エネルギー利用）の促進が求められている。プラスチックのライフサイクル全体での資源循環の強化は、事業者主体のリサイクル推進と併せて、素材設計から廃棄・再利用に至るまでの効率的な資源循環を図る枠組みとして位置づけられている。このような政策環境では、廃棄物の熱利用を含む多様な循環利用手法が評価されており、RPFの製造・利用拡大は国の循環型社会推進の方向性と整合する。

また、CSRの観点からも、RPF製造量の拡大は重要な意義を持つ。廃棄物を単なる処理対象ではなく、資源として社会に還元することは、環境負荷低減のみならず、地域社会や取引先の環境課題解決にも貢献する。加えて、化石燃料使用量の削減を通じて温室効果ガス排出削減にも寄与する点で、企業の気候変動対応としての評価も高い。

以上を踏まえると、「RPF製造量」を目標として設定することは、借入人のサステナビリティ経営の方向性を明確に示すとともに、環境価値と事業価値の両立を図る取り組みとして、有意義な取り組みであるといえる。



### 3. 目標値の設定

本ローンの目標値の設定については、以下の（１）から（３）の観点より適切な内容で設定されていると評価する。

#### （１）目標値の概要

借入人は、目標として設定した「RPF製造量」について、2026年7月期から2035年7月期にかけて、下表のとおり、毎期2%の増加を企図した目標値を設定した。

#### 【借入人の目標値】

	実績			← 本目標値の対象				
	2023年7月期	2024年7月期	2025年7月期	2026年7月期	2027年7月期	2028年7月期	2029年7月期	
RPF製造量 (t)	15,449	15,435	15,105	15,407	15,715	16,030	16,350	
	2030年7月期	2031年7月期	2032年7月期	2033年7月期	2034年7月期	2035年7月期	2036年7月期 (参考)	
RPF製造量 (t)	16,677	17,011	17,351	17,698	18,052	18,413	18,781	

(注1) 各年度の判定期間は8月1日～翌年7月31日。初回判定日は2026年7月31日。

#### （２）目標値の妥当性

借入人のRPF製造量は、2023年7月期の15,449tから2025年7月期には15,105tへと減少傾向にある。近年、サステナビリティへの関心の高まりを背景にRPFの需要は増加している。一方で、原料となる廃プラスチックの排出量はピーク時と比較して減少傾向にあり、代替原料として混合廃棄物を活用することで一定の製造量の増加は見込めるものの、収集体制や製造工程の見直し、品質維持の難易度が高い。

これらを踏まえると、毎期2%ずつRPF製造量を増加させ続けることは相応に挑戦的であり、サステナビリティ経営の高度化に資する目標であると評価できる。

#### （３）目標値の適切性

目標値の適切性については、第三者機関であるひろぎんエリアデザインから評価書を取得している。



借入人は、前述の「1. 借入人とサステナビリティ」、「2. 目標の選定」、「3. 目標値の設定」に関して、自らの対応について客観的な評価が必要と判断し、ひろぎんエリアデザインによるレビューおよび目標値として設定する指標の検証を依頼した。

当該依頼を受け、ひろぎんエリアデザインは、地域特性や業種特性を踏まえて借入人が独自に設定した評価基準について確認の上、評価書を作成した。貸付人も、ひろぎんエリアデザインが評価書を作成することを承諾している。ひろぎんエリアデザインの評価書は貸付人に提供される。

## ひろぎんエリアデザイン 会社概要

社名 ひろぎんエリアデザイン株式会社

代表者 代表取締役社長 松内 紀子

所在地 〒730-0031  
広島県広島市中区紙屋町1丁目3-8

設立 2021年4月1日

資本金 1億円

株主 株式会社ひろぎんホールディングス

TEL 082-504-3016



## 留意事項

### 1. ひろぎんエリアデザインの評価について

本文書については、貸付人が借入人に対して実施する〈ひろぎん〉SXネクストローンについて、設定する目標の妥当性に対する評価を述べたものです。

その内容は、入手可能な公開情報、借入人から提供された情報や借入人へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況を評価したものであり、当該情報の正確性、実現可能性、将来における状況への評価を保証するものではありません。

ひろぎんエリアデザインは、当文書のあらゆる使用から生じる直接的・間接的損失や派生的損害については、一切責任を負いません。

### 2. 貸付人との関係性、独立性

ひろぎんエリアデザインは、ひろぎんグループに属しており、貸付人およびひろぎんグループ企業との間、およびひろぎんグループのお客さま相互の間における利益相反のおそれのある取引等に関して、法令等に従い、お客さまの利益が不当に害されることのないように、適切に業務を遂行いたします。

また、本文書にかかる調査、分析、コンサルティング業務は、貸付人とは独立して行われるものであり、貸付人からの融資に関する助言を構成するものでも、資金調達を保証するものでもありません。

### 3. ひろぎんエリアデザインの第三者性

借入人とひろぎんエリアデザインとの間に利益相反が生じるような、資本関係、人的関係等の特別な利害関係はございません。

### 4. 本文書の著作権

本文書に関する一切の権利は、ひろぎんエリアデザインが保有しています。本文書の全部または一部を、自己使用の目的を超えて、複製、改変、翻訳、頒布等を行うことは禁止されています。